



この「X-Adventure」は2日間の13ステージからの成り立つ。1999年度、5月のスペインから始まり、スコットランド、スウェーデン、フランス、ドイツ、フィンランド、そして9月に日本で開催された。

1ステージが時間内に完走出来なくてもペナルティータイムを与えられて次ぎのステージに進めるといった遊び心がある。本場の「レイド・ゴロワーズ」や「エコ・チャレンジ」ではこの時点で失格である。またチームに必ず女性を含んでいなければならない決まりもあるのでこの「X-Adventure」はその点は非常に緩やかであった。

//////// 「SALOMON X-Adventure」 Concept //////////

「SALOMON X-Adventure」はチームレースなのでチームメイトを一人きりにしてはならない。

安全面としてヘリコプター機、ヨーロッパよりレスキュー専門ドクター1名、日本のドクター2名を待機。

チームとして必ず用意する用具（各1）

・コンパス・高度計・笛・ナイフ・テント or ツェルト・防水地図入れ・4WD 車両

各選手が必ず用意する用具（各1、ピナは2ヶ）

・ヘッドランプ・サバイバル毛布・水筒・ウエットスーツ・MTB & ヘルメット&ライト・ハーネス&カラピナ& 8カン・帽子・手袋・2Way のロングタイツ・フリース上下・ウインドブレーカー・ザック 10-30L・健康保険証

必須用具（レース中は義務づけ）

・笛：1・ナイフ：1・防水地図入れ：1・ザック：1・サバイバル毛布：3・水筒：3

CP（チェックポイント）には必ず立ち寄りチェックする。

食料などはすべてチームが用意する。ゴミをすれば即座に失格。

「レイド・ゴロワーズ」そう、これは私が5年前に興味をしめしたスポーツである。

トライアスロンも年々派手さを増し、次の日にレース本番であるのにカーボパーティーでビールなどをたらふく飲み食いするのも少し疑問に思ってきていたところ、あるテレビですべてが大自然と対応して食料などを一切合切ザックに詰め込み、地図や高度計を駆使してそれでなおかつレースをしているスポーツであった。

私はテレビに食い入るように見ていたのを思い出す・・・、当然にそのころは山などは登った事もなかった。高度計やコンパスや地図は当時にパラグライダーに入れ込んでいたのでなんとか読むことはできたのだが・・・。

そして・・・、最初に登った山が夏山ではあるが槍・穂高連峰の縦走登山の始まりであった。それからというもの山へ精力的に登りだし、ついには雪山までも・・・、地図やコンパスを読みながらXCスキーや山スキーにまでも手を染めるようになってしまった。

そんな日々を送っていたある日突然、「レイド・ゴロワーズ」の小型版の「X-Adventure」からDMが送られてきた。私は非常に興味が沸くレースだったのであるが、いかんせん私の今の「チームしらさぎ」では、どうしてもそれらしきメンバーを組むことが出来ないで、当日はスタッフに応募しようとしていた矢先に「チーム美輝郎」の大倉さんより、「一緒にチームを組んで出場しよう」とのTELが入る。私は、それなりにこのレース内容を把握していたので「簡単に考えやがって！」と思った、何せ彼らはまだMTBも持っていないので先が思いやられるのは目に見えていたのだが、体力は人一倍あるし、・・・この日本でのレースも今回限りになるかもしれないと思い「よしっ、出場しよう」と快く返事をした。

さて、それからというもの私は、精力的に独自でトレーニングメニューを考えて、レースまでの2ヶ月は登山とMTB、そしてシーカヤックを重点的にこなしてきた。

また色々と装備やその他の質問も事務局にインターネットで問い合わせますが、レース内容、コースなどはもちろん何も教えてくれないので余計に興味津々であった。あーでもない、こーでもないで装備の補充点検に毎日が追われるしまつである。

レース結果からいうと50チーム中で14位に位置づけ出来たのは上々であろう。Timeは27:36:21であった。またTeam TotalのAge部門があるとしたら1位間違いなしであっただろう。

内容は、登山とMTBは快調にこなせたものの、肝心のカヤックがこれまた生まれて初めてで変わったゴムボートの代物を3人で漕ぐので四苦八苦の連続でマイッテしまった。

また夜中までのレースになる覚悟はあったがまさか一日目が、午前6時にスタートして次ぎの日の午前6時にゴールするとは夢にも思わなかった。しかしその辛さ以上に面白かったのは言うまでもない。



////////// Jpapan Stage Concept //////////

9/25 (土)

- A Section > カヤック 野尻湖 10km  
B Section > オリエンティ어링 ~ 黒姫高原スキー場 12.8km  
C Section > MTB ~ 雨飾山 1963m 登山口 39km  
D Section > 登山 ~ 雨飾山 9.5km  
E Section > MTB ~ 笹野 9km  
F Section > Canyoning ~ 横川沢 2.8km  
Section > Link by car ~ 蓮華温泉  
G Section > 登山 ~ 白馬乗鞍 2436m ~ 樽池高原 15km  
H Section > MTB ~ サンアルピナ鹿島槍スキー場 30.1km  
I Section > MTB ~ 木崎湖 森 11.6km  
J Section > カヤック ~ 木崎湖 6km  
K Section > MTB ~ 青木湖 加蔵 15.1km  
L Section > カヤック ~ 青木湖 2.2km  
M Section > オリエンティ어링 ~ 五竜遠見スキー場 6.7km

9/26 (日)

////////// My Team Concept //////////

チーム名・・・MIKIRO

メンバー・・・石野美輝郎 51 才・大塚賢一 44 才・永峰敏明 43 才・大倉康治 39 才

ドライバー・・・岸本陽介 26 才 (サポートカーは 4WD 限定で 2 日ステージで 300km は走る) の精鋭? 達です。

////////// 我々チームが持参した食料&ドリンク //////////

- 食料>>> カップ麺・お粥・カロリーメイトブロック・パン・乾パン・梅干し・羊羹  
サプリメント>>> ビタミン C、B2、B12、Fe・3Action・カーボショット・アミノバイタル  
ドリンク>>> 水・コーラ・ポカリ・CC レモン・エネルゲン・ウーロン茶

////////// 現地到着 //////////

9/25 (金)

台風 19 号から逃げるように一路、野尻湖の受付本部へ到着したのは、24 日の 15:30 であった。そこで石野さんと合流する。台風はどうやら今晚に日本海に過ぎ去ってしまうようである。これで明日からのレースは可能である。

まず、受付で持ち物検査である。・チームで用意するもの、・各人が用意するもの、などのチェックである。3 人が一度に出さなければならぬので、慣れていないせいもありうまくはかどらない。我々の前に荻原次晴率いるチームがテレビ東京に終始インタビューされていた。

やっと、明日からのレースマップが支給された。近所の食堂で早速にミーティングである。マップを見ればはやり思っていた以上にとんでもない距離である。しかし、カヤックが 3 ステージとも湖なので一応全員「ほっ」である。

しかし、サポートカーの出番も半端ではない、「陽介、よ〜く把握しとけよっ!」と、サポートも選手同様に気合いが必要なほどの距離を運転しなければならない、現に 340km は走っていたのだから・・・。

17:30 から再び受け付け会場の公民館に集まり、ゼッケンベストを



支給される。「21」である。主催者の最終挨拶を終え早々に腹ごしらえをして、今晚の宿「ランドマーク妙高」の大衆風呂に行く。ここは22時からだと素泊まり3200円なので最高に安い！。駐車場で明日からのそれぞれのセクション

の荷物を分けていると、数チームも同様にセッティングしていた。しかし、この仕分けが簡単そうでなかなか三者三様にはかどらないので手間取る。そうこうしている内に22時前となり入り口をくぐる。体をゆっくりと風呂でいやして、明日からの闘志をたたえビールを飲み交わしながら・・・今度は地図の点検である。ようやくに各 Section のメンバー構成などが決まった時はすでに0時を回っていた。

////////// Racer Route Day 01 //////////

9/26 (土)

4時に起床し、Coffee Timeを終え、真っ暗闇をスタート地点の野尻湖の神山国際村の大崎を目指して・・・、しかしこの周辺は長野五輪のために道路が高速並に

広く拡張され非常に助かるのだが、大赤字だと聞く。なんでも県民一人当たり500万円の負担額でまかなうそうだが、なかなか難しいことである。このころがゼネコンが大儲けの最終年であろう。

5時過ぎに現着したが、もうほとんどのチームが準備している。我々も大慌てで準備するが、薄暗い上に膝まである草むらでのセットなので往生してしまった。

A Section **野尻湖** Kayak 10km CP:3カ所 D+:0m D-:0m  
Member > 石野・大塚・永峰 Time > 1:39:50

6時30分いよいよスタートである。このスタートはトライアスロンのように一斉スタートでは無いので非常に気が楽である。

CPカードを受け取りいよいよ我々のスタート6時40分である。水面でカヤックを押して飛び乗るまではうまくいったが、いかんせんそれからと言うものこんな代物に乗ったことは初めてであるのでなかなかうまく真っ直ぐに進まない、私が後ろで何とか舵取りをするが一向にスムーズに真っ直ぐに進まない、このカヤックにだけは非常に疲れてしまった。川下りだともっと面白いのであるが、そうすれば沈の続出であろう。

しかし、先頭集団の外人勢とは見る見る内に差が開いて行く。また白戸太郎率いるSALOMON JAPANにもあっという間に抜かれてしまった。





石野さん



ファイト-1パーツ



永峰さん



大倉さん

B Section Orienteering 12.8km CP:7カ所 D+:220m D-:60m  
Member > 石野・大塚・大倉 Time > 1:41:37

カヤックで右往左往していたがなんとかいいタイムで上陸できた。永峰さんが大倉さんとChangeしてさあ、地図を片手にOrienteeringの始まりである。これが結構面白い。信濃の田舎町を経て黒姫高原スキー場までの12.8kmである。前のチームに付いて行っても余分な所まで回るおそれがあるので、我がチームを信じて進むのみである。コースの要所要所にCP(チェックポイント)があるので一つでもCutすれば、これまたPenalty Timeを加算されるのである。

この時、カメラマンがこのチームの年齢はいくつですか?、などと興味津々で質問攻めになった。

C Section MountainBike 39km CP:6カ所 D+:1310m D-:950m  
Member > 石野・永峰・大倉 Time > 3:51:38

このMTBで差がつくと言われている非常にタフなコースのMTBの始まりである。私は永峰さんとChangeしたのでサポートに回り、陽介と雨飾山の登山口まで移動であるが、途中で道を大幅に間違っしまい2つも峠を越えてようやく到着した。予定では3時間オーバー位でそろそろ着いてもいいはずなんだが、待てども待てども、どのチームも全然にやって来ない。スタッフに聞くとまだ12チームしか戻っていな

いと言う。これは何かトラブったなあ、と陽介と顔を見合わせる。TEAM COSMICのMixedが帰ってきてから20分たつてやっと我々のチームが「なんちゅうコースやねんっ!、とんでもなくハードや!」と興奮さめやらぬ状態で帰ってきた。この時点で永峰さんと大倉さんはバテていたが、石野さんは私のスペシャルバイクに初めてまたがり「これがMTBかと思うほど快適なバイクや!」と非常に元気であった。

早速に暖めていたお粥をそそぎ込み、次なる登山ステージへ・・・。

D Section Mountaineering 9.5km CP:2カ所 D+:803m D-:1043m

Member > 石野・大塚・大倉 Time > 3:01:00

日本100名山にも数えられる雨飾山1963.2mの山越えである。永峰さんと私が再びChangeする。

最初、大倉さんはものすごい勢いで登山口までの平坦な道をランで突っ走って行くので、「こんなペースで行ったら潰れるぞ~!」と言ったのもつかの間、登山口からはいきなりの急登でやはり、今までのMTBの疲れも出てきて早々にバテてしまっていた。しかし、この雨飾山は地元の雪彦山を有に3往復はあろうかと思うタフな登りである。さすがの石野さんも足の筋肉がピリピリとすと言っていた、私は前ステージのMTBを休んでいたせいもあり、またトレーニングで雪彦山



を幾度となく登り詰めていたので自分で言うのもなんだが非常に元気一杯であった。途中でガケみたいな所を登っていると、ヘリコプターの爆音がしたと思いや、我々のすぐ近くまで寄ってきてしきりのカメラを構えているので、まるで「ダイハード」並の映画の撮影のようであった。

さすがに 100 名山に数えられているだけあって一般登山客も多いのであるが、我々の並大抵ではないスピード登山にあっけにとられているばかりであった。また、「これからまだ今晚中に白馬乗鞍にも登山するのです」と言うと、開いた口がふさがらない様子であった。

ここで、TEAM COSMIC との差を山頂で巻き返した。山頂付近はまだ高山植物が少し咲き誇って美しいところであったが、周囲はガスがかかっていて残念ながら 360 度のパノラマが展望出来なかったのが心残りであった。下山道はあまり登山者が歩いていないらしく多少ブッシュに見舞われているところが目立つ。それもそうであろう、下山の終点は車が無いとどうにもこうにも大変に長い林道であるのだが

ら・・・、この雨飾山は 100 名山にしてはピストン登山なのは少々残念な山である。

E Section MountainBike 9km CP : 1ヶ所 D+ : 30m D- : 540m  
Member > 石野・大塚・大倉 Time > 32 : 48

このSectionではMember Changeは出来ないのもそのままである。下山の終点からの 9km のダウンヒル MTB であるが、サポートカーもここでは待機出来ないのもバイクだけを置いて次なるステージの Canyoning まで移動している。

このダウンヒルが半端じゃなく絶対に車では来られない道である、ドロドロのぬたぬたで全身が泥のコーティングしたみたいになってしまうほどだ。しかし、ビビってひとたび降りてしまえば足下までドロドロになっていしまうので、加速をつけて突破するのみである。大倉さんも柄にもなくカッコいいジャンプテクを披露して頑張っていた。私はこんなコースは大好きで大はしゃぎでガンガンにかっ飛ばし 3 ~ 4 回止まって彼らを待つ。また、ここで他のチームは殆ど降りていたので 3 チームを抜かした。



F Section Canyoning  
2.8km CP : 2カ所  
D+ : 110m D- : 110m  
Member > 石野・大塚・永峰 Time > 2 : 47 : 31 (ペナルティー)

残念ながら、我々がこのステージにゴールしたのは 17 時半を回っていた。

このCanyoning はすでに 16:30 に打ち切りになってしまっていたのだ。



非常に残念である、この為、雪彦山で8環を使って垂直降下の練習もしてきて今回一番の楽しみであったのに……。結局このステージをクリア出来たチームはたったの12チームだけであった。

G Section Mountaineering 15km CP : 4 力所 D+ : 936m  
D- : 1496m

Member > 石野・大塚・永峰 Time > 6 : 04 : 36

Canyoning地点の姫川温泉・大網から、メンバー全員でサポートカーに乗って蓮華温泉駐車場まで移動である。これが約1時間もかかるので、我々(石野・私・大倉)はハイエースの荷物入れでドロドロのMTBと一緒に囚人護送車のように横乗りで何とも言えぬほどの異臭(我々の汗と体臭)に見舞われてついには大倉さんが気分を悪くしてしまった。ホントにこの1時間の車内は苦痛でしかなかった。

蓮華温泉駐車場に着いたころは、満月のお月さんも顔を出してきたが、時間は8時前である。今から何と2436mの白馬乗鞍に登って、梅池公園スキー場の「親の原」までの下山である。

当初のメンバーは私の替わりは、大倉さんの予定であったが、車内で気分を悪くして、また少しパテていたのも、元気一杯の私と交代したのである。

私は、この山は3年前の5月に山スキーを担いで梅池公園から、この白馬乗鞍岳に登って、小蓮華山、白馬岳、杓子岳、鑓ヶ岳を経て、猿倉まで滑り込んだ思いがあるので、夏の白馬乗鞍や白馬大池が非常に興味深かった。しかし、こんな夜に登山するとは夢にも思わなかつ



た。  
蓮華温泉からの登りはそう大した斜度ではなかったのが比較的楽であった、しかしその分アプローチは長いのだが……。

山頂では、月夜に照れられて映し出されて、さざ波の音色でリズムをとっているかのような白馬大池は何とも言

えぬほどに幻想的であった。5月は雪に覆われて池の水など微塵にも見せてくれなかったのだから……。また、小蓮華岳も素晴らしくそびえ立っていた。手持ちのポケットカメラでフラッシュを炊いてバックに納めたが、やはり明かりが少なすぎて暗闇にたたずむポートレートであった。

下りは、ゴツゴツした岩を転ばぬようにするので、膝や太股に力が入るために他のチームも相当にへばっていたようである。永峰さんも捻挫が痛々しそうであった。また石野さんも50才を回ってからこんな夜中に登山するとは夢にも思わなかつたわと、「これで私は朝まで休みやから……」と



さすがにマイッテいるようであった。

梅池山荘の最後のCPを過ぎてからは、アスファルトの道を約8kmほど下りなので我々は登山靴なのでマイッテしまった。しかしこの当たりによく滑りに来ている永峰さんが土地勘を生かしゲレンデを下っていくコースを取り大幅にタイムを短縮した。現に我々を抜かして行ったチームに再び抜かれるというシーンもあった。結局このゴールはタイムリミットぎりぎりの午前1時前であった。

H Section MountainBike 30.1km CP: 8カ所 D+: 620m  
D-: 420m

Member > 大塚・永峰・大倉 Time > 3:14:15



ここで石野さんと元気になった大倉さんがChangeである。時間に追われてバタバタしてMTBの準備に大忙しである。

スタートしたとたんいきなり急登で押しに入ってしまう。またス

キー場から林道に出る地点で道が分からずに4~5チーム一緒に右往左往してしまい、大幅にタイムロスをしてしまった。また林道に出れば出るでとんでもないドロドロコースあり、深いわだちあり、あぜ道あり、担ぎありでみんなノロノロ運転でも転倒するしまつである。私はここでも大はしゃぎでハンドライトとヘッドライトを巧みに使いこなし気が付いた時はトップを走っていた。しかし、油断は禁物で4度

ほど大クラッシュしてスポーク一本折り、スピードメーターを無くし、フロントディレイラー故障となって散々でした。またこのコースは深夜にも関わらずCPが8カ所もあって一つでも見失えば何処に我々が位置するのか迷ってしまうので、チーム一丸となり緊張の糸を緩められないのです。

しかし、青木湖の西岸を走っているときなどは、湖岸の風を体中に浴びて最高にいい気持ちでした。極めつけは、中縄湖を過ぎたあたりから、最後の究極のサンアルピナ鹿島槍スキー場までの急登でみんな相当に足にきて私は4~5回手押しになりました。

結局、ゴールしたのはこれも時間ぎりぎりの5時前でした。もう、すでに周りは明るくなってきていました。

I Section MountainBike 11.6km CP: 1カ所 D+: 258m  
D-: 633m

Member > 大塚・永峰・大倉 Time > 46:57

タイミングよくサポートの陽介がゴール地点に来てくれていたので、早々におにぎりなどを頬ばり、同じメンバーで本日の最終ゴールである木崎湖西岸までのダウンヒルである。MemberはChangeなしである。



一睡もしないままレースを持続、そしてすがすがしい朝を向かえた。

1333m付近のピークまで緩やかな登りであるが、後立山連峰の夜明けである。神々しいまでに山々の目覚めである。鹿島槍の相似峰、爺ヶ岳の山肌に雲海の

中からの Morning sun を浴びて山肌は金色に輝き初めて我々に勇気を与えてくれているかのようだ。

そんな大自然の誉みを体一杯に浴びてのダウンヒルはなんとも言葉では言い表せない最高にHappinessである。この日の最終ゴールは午前6時前であった。

//// Racer RouteDay 02 ////

9/27(日)

6時前に帰ってきてからというもの、今日の第1ステージが7:30からなので、ゆっくりと休む間もないほどである。炭水化物やブドウ糖を口に頬張り、エネルギーの補給だ。

となりのチームはSALOMON JAPANが準備に忙しそうであった。しかし、経験豊富だけあってみんな余裕の顔色である。そうこうしている内に後ろのチームの女の子が蜂に刺されたて回りはパニック状態であった。しかし、我がチームの救急救命士の永峰さんが、すかさず応急処置をとって、何とか大事は免れたようで、すぐに救急車が来ていた。しかし、このチームはこの女の子がメンバーなので、この時点で万事急須である。大自然が相手なので何が起こるか分からない。



J Section 木崎湖 Kayak 6km CP:3カ所 D+:0m D-:0m  
Member > 石野・大塚・大倉 Time > 52:23

Day 01 の帰って来た順番にスタートなのである。アナウンスが「ゼッケン21 ミキロウ・・・No,14」と伝えてくれる。一同「おお～、

14位や！、もっと順位を上げようぜっ！」と眠気も吹っ飛ばして意気込む。

今回は船頭に石野さん、中間に私、船尾に大倉さんが位置してのスタートである。しかし、やはりなかなか真っ直ぐに進まない。「大倉さん、ちゃんと舵取りせんか～！」、「分かつとんやが、これがなかなか・・・」と本当に別に波もないのに難しいのであるし、非常に歯がゆい思いである。石野さんにも水泳の最後のプッシュの要領や、と言ってもなかなかパドルが思うように動いてくれないようである。次回はこれがみんなの課題でしょう。3艇に抜かれてゴール！。

清々しい朝の湖は朝霧が立ちこめ幻想的な雰囲気をもたらし出してくれて疲れも何処へやらである。

K Section MountainBike 15.1km CP:6カ所 D+:560m D-:490m

Member > 石野・永峰・大倉 Time > 1:50:59



私は永峰さんとChangeなので、トップクラスのチーム、France,Sweden,SpainのMixed Teamのスタートをカメラに納めたが、どこの国の女性も愛くるしく金髪で可愛い・・・フランス人形である。何故にこんな女性が強いのか？、想像を絶するしだいである。

か？、想像を絶するしだいである。

Day 02 は比較的、すべてがShort Raceに設定してあるので、サポートカーも大忙しで次のステージに向かわなくてはならない。

私と永峰さんがChangeをする。陽介と、もろもろの用具を収納して次なるMountainBikeのGoalSection、青木湖の南東岸、加蔵まで車を走らせる。

次なるステージは再びCayakなのでMemberのウエットスーツを干す。その間にトップチームが陽気な顔をして、泥も跳ね上げずに帰ってきた。我々のチームは待てどもなかなか帰って来ない、帰ってきたと思えば全員泥だらけである。一体何処を走ってきたのか？、と首を陽介と首を傾げてしまった。またこのステージで石野さんが、私のMTBで

一回転をしたそうである。Bikeもガタガタであるがこれで、もうMTBのStageはないのでヤレヤレである。

L Section 青木湖 Cayak 2.2km CP : 1 力所 D+ : 0m  
D- : 0m

Member > 大塚・永峰・大倉 Time > 21 : 38

駐車場からCayakを担いで青木湖にスタートである。石野さんと私がChangeである。Cayakも3ステージとなると少々慣れてきたせいもあり、どの艇も真っ直ぐに進んでいる。我々の艇も順調であるが、2艇に抜かれてしまった。また撮影用のヘリコプターが真上でホバリングしているので、一向に進まないのがアクシデントである。距離も2.2kmなので、いよいよあとはOrienteeringの6.7kmを残すのみである。

M Section Orienteering 6.7km CP : 7 力所 D+ : 110m  
D- : 120m

Member > 石野・大塚・永峰 Time > 51 : 0

さあ、いよいよFinal Stageに突入だ。このSectionで大倉さんと永峰



さんがChangeをするが、正直Final Stageだけは4人で・・・、ゴールテープはサポートの陽介も入れて切りたいものである。

コースは、夜中に走ったMTBのコースなので比較的楽にコース取り出来た。あと、1kmほどになると、ああもうこれでこの素晴らしいレースも終わりなのか、と今までの12 Stageが走馬燈のように頭の中を駆けめぐっていく。

なんとえばよいのか？、Ironman hawaii Triathlonの時の感動も素晴らしい

だったが、新たな感動を胸一杯に込めて、4人で素晴らしいゴールテープに突入した。

最後は、お立ち台に5人揃って写真に収まり、思いで深い長い長い2日間が過ぎ去っていった。

今までで数知れずレース経験をしてきてどのレースも素晴らしいだったがこのたびは、何とも言い難い爽快感、充実感、そして楽しい、長いレースである。

こんなに長いレースをしているのにゴール後も疲れが無い？のは初めての経験である。

最後に、この素晴らしいレースを開催して下さったスタッフの皆さんに感謝するしだいである。

「X-Adventure」の前途ある未来に対して「カンバイ!!!」

# X-Adventure

//////// サポートの岸本陽介から見た「X-Adventure」////////



とにかく最高!!!のコースでした。台風の影響が心配されましたが、土曜日の朝6時の野尻湖のカヌースタート時点では多少風が強かった程度(出場してた人はそうは思わなかったでしょうが・・・)

カヌーはとにかく外人の招待チームが滅茶苦茶速い!。走ってきてあっという間に飛び乗るとまっすぐに湖面に消えていく。我がチームは飛び乗るまでは良かったのだが、左の方に曲がっていき、見た目も苦労している

様子でした。極めつけは、前日の夕食時に隣だったチームがいきなり沈して、大勢のカメラマンの標的になってました。(うちでなく良かった)

その後、オリエンテーリングでしたが、カヌーを積んですぐ黒姫スキー場へ移動。バイクを組み立て、補給の用意をする。

この移動と補給の用意が以外と難しい。何しろ渡された地図にはだいたいの道しか記入されてなく、道にある標識(X-Adventurerの標識)も20×30"か、コーステープをぶら下げただけの代物だからだ。チームもサポートもオリエンテーリングの技術が必要なのである。

この最初の移動だけは距離も短く、他のチームのサポートカーについていけばよいのだが、ナビのない我がチームは地図と土地勘だけが

頼りだったのである。ちなみに初日のCステージからDステージまでは迷ってしまい休憩中の大塚さんにも迷惑をかけてしまった。スイマセン。

話はさておき、Cステージ(MTB)が終了したがみんななかなか帰ってこない。だいぶタイム差が出来始めたようだった。ちなみに外人チームはサポートカーが到着した時点で既になかった。

やっと帰ってきたら、みんなの新品のMTBはドロドロ。しかし顔は輝いていた。口々に『メッチャクチャ面白いコースや!誰が考えたんやー』と言う。この時点で荻原次晴のチームを追い越したようだった。順位も16番ぐらいか?。早速お粥を流し込み、次のオリエンテーリングへ向かう(百名山の雨飾山である)。僕は永峰さんと林道を車で走り、次のポイントに自転車を置きに行く。この林道は乗用車では厳しい。確かに四駆が必要なのが分かる。このE,Fステージはサポートが出来なく、荷物を置くだけ、出場者も代われない。

この時点ではみんな元気。大塚さんは絶好調〜って感じでした。

E,Fステージを後にして、小谷温泉まで移動する。この小谷町は以前に鉄砲水が出て、多数の死傷者を出したところだ!。今もフォッサマグナの影響で、山や谷が成長中と言った場所である。

さて、これからが最大の楽しみだったシャワークライミングのステージである。朝使用したウェットを干し、食事(お粥)の準備をする。

他のチームの様子だが、ほとんど到着?している。どうやらE,Fステージをパスした連中が多いようだ。それにしても外人チームは速すぎる。既に次のステージに行ってしまったようだった。

時間がかかなりありそうなので、サロモンのスタッフと少し話が出来た。聞けばAdventurerの企画は一年半以上前から取りかかっていたそ

うだ。そして各パートのスペシャリストがフランスからやってきてコースを設定したらしい。僕と話していた日本人スタッフもフランス人のスタッフから道の指示があって初めて移動しているらしい。それにしても細かい道までとても詳しいそうだ。全く、フランス人の考えることには脱帽だ。

さて、その間に16時30分で競技スタートを終了するという放送。どうやら間に合いそうにない。この時点で14チームしか戻っていない。我がチームは15～16番から非常に残念だ。

18時近くになって我がチームは到着。シャワークライミングが打ち切られたことがとても残念だ。僕もあの雪彦山の練習はなんだったんだ・・・と思いたくなるが、まだレースは終わったわけではない。

次のステージがオリエンテーリングなので、ここで食事をする。お粥やラーメン等で腹を満たすが、僕は朝から何か食べたのかどうか分からなくなってきていた。

次のステージまでは車で移動なので荷物とともに乗り込む。しかし、みんなの汗や泥でナイスな臭いである。大倉さんは車酔いすると言っていたので心配だ。

蓮華温泉までは大変な山道だった。以前自転車で登ったこともあり想像していたのだが、荷物満載の車だとなかなか到着しない。『陽介まだか～～』と、後ろから声がかかるがどうしようもない。結局20時近くになって到着。スタート地点はかなり冷え込んできた。みんなの顔を見てみると、まだ大丈夫そうだったが、大倉さんはやはりリバーズしていた。

ホント僕の心境と言え（この時間から乗鞍から梅池である。みんなの無事が一番。）といったところだった。

車での下山途中大きな二ホンカモシカとすれ違ったが、大倉さんが

『陽介！見たか！でっかい山羊や～～！』と言ったので転げそうになった。山羊ちゃうでほんま。

車で梅池高原まで移動し、コンビニにおにぎりを買っていくが、冬ではないので生鮮食料品が全くない。しかしこの時点で既に今晚中に帰れるのだろうか・・・と不安がよぎっていた。

さて、梅池高原スキー場のゴンドラ中間駅がこのステージの終了地点だ。駐車場に着くと、高い山の上にヘッドランプの灯が蛍のように輝いていた。外人部隊は既に到着しているチームもあるようだった。全く信じられない連中だ。

少し時間があるようなので、大倉さんと自転車の用意をしながら食事をする。気温も下がってきていたのでみんな無事だろうか・・・と不安になる。昼間ならいざしらず、夜に百名山など普段なら考えられない。

その間に順位を確認する。外人部隊との時間差は既に5時間ほどだ。やはりシャワークライミングのペナルティーが痛い。しかし、初挑戦！完走が目的なので、ゴールで笑えればよいのだ。

この時点では各チーム間の時間差が大きく、何時到着するか予想もできない。車に戻り、服を着たりしていると、スペインチームの女性二人が車の前の暗闇に消えていく。どうやらトイレのようだったが、大倉さんは目が合っしまい気まずかったようだ。

そこし休んでいるとみんな到着。大倉さんと石野さんが交代し、次の鹿島槍スキー場に向かう。（鹿島槍までのコースはそんなに上りはないだろうと予測していた）ところが、鹿島槍の入り口から駐車場まではとんでもない上り坂だった。『こんな乗れへんで～』と互いに言っていた。駐車場到着時点で午前3時半。少し仮眠する。

ふと目覚めて、時計を見ると5時を越えていた。関門までもうわず

かしかない。気になってゴール地点の係員のところまで行ってみると、ちょうどみんなが到着していた。あわてて、車を移動し、補給を渡す。いよいよ今日(昨日?)の最後のステージ。みんなガンバレー。

いよいよキャンプ地点の木崎湖に移動。この時間から眠れるか?急いでテントを組み立てる。

みんなの到着は朝6時。丸24時間レースしていたことになる。みんな『こんな初めてやー』と言っていた。全くこんなレースは初めてだ。それにしても他のチームが既にキャンプしていたのは何故?

7時になり次の準備をしていると、僕らの横のチームがスズメバチの襲撃に遭っていた。永峰さんの応急手当もむなしく、ショック症状で救急車に乗せられて病院へ。彼らのチームは他に人員がないのでリタイヤとなった。病院搬送後は解放に向かったとのことらしいのでホッとした。ここまで頑張ったのに可哀相だが、無事なのが一番だ。係員も蜂対策までは用意していなかった。

7時半になり、順位順にスタートする。15番位からなのだが、今度はまっすぐ進むだろうか?だがスタートを見るととても上出来。

二日目はステージに到着しても準備時間に制限はないし、ステージも少ないので和んだ雰囲気だ。ステージが終わりマウンテンバイクステージに突入しても、大塚さんとゆっくり片づけ次に向かう。

次の到着地点の青木湖ではたくさんのチームが到着していたが、みんな休んだり、物を干したりしていた。僕らもウェットを干す。

他のチームを見て回るが、どのサポートカーも似たような状態。白戸さんのチームが一番上手く収納していた。来年は僕らももっとシステムチックになるはずだ。

外人のチームは例に漏れず早く帰ってくる。しかも服さえ汚れてなく、涼しげだ。たぶん疲れなんか感じずに『腹減った!』だけなんだろうか?

青木湖ステージは短いのでスタートしてすぐに移動。ゴール地点でMTBを洗って待つ。MTBもぼろぼろだ。

最後に永峰さんと大倉さんが交代し、ゴールへ向かう。途中で遠くに外人チームが走っていたので車を止め、車の上から手を振ったら答えてくれた。最高だ!!。

ゴール地点に到着し、そしてみんな感動のゴール!一緒に記念撮影。石野さんに記念のTシャツをもらってしまった。本当に僕がもらっていいの?・・・ありがとうございます!

本当に最高のレースでしたね。サポートもいろいろ面白かったですよ。勉強になりましたし。ただ、移動距離が340もあったのは驚きです。

それにしても出場したみんなが一番輝いてました!!僕もでたかったなー。

